

〈基礎編〉

1

五十音図と歴史的かなづかい

P.3

【解答】

- ① (1) ① 子音 ② 母音 ③ 行 ④ 段
⑤ ヤ行 ⑥ ワ行 ⑦ いろは(歌)
⑧ イ・ウ・エ

① 五十音図は、活用語の活用のしかた、音韻変化などの説明に有効な原理として利用されるので、タテ・ヨコ自在に暗唱できるようにしなければならぬ(たとえば、動詞の○行○段活用というのは、五十音図の「行」「段」のこと)。

【解説】

「歴史的かなづかい」は、平安時代中期以前の古典に基準をおいたかなづかいである。当時の人々はほぼ発音どおりにかなを用いていたわけだが、時代が下るにつれ発音のほうは変化し、表記はそのまま固定して残った。そのため、歴史的かなづかいと現代の発音の間にはかなり違いがあるわけである。

2

文・文節・単語・品詞

P.4

【解答】

- ① (1) うつくしき／もの、／瓜に／かきたる／ちごの／顔。
(2) 野山に／まじりて／竹を／取りつつ、／よろづの／ことに／使ひけり。
② (1) その竹の中に、本光る竹なむ一すぢありける。
(2) 雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。
③ 人 向かひ ことば 多く 身 くだびれ心 静かなら

【解説】

- ① 文節分けは、便宜的には現代語と同様、「ネ」をはさんで不自然にならないところで切ればよい。
② 「その」の扱いに注意。現代語では一語の連体詞だが、古典語では「代名詞+助詞」の二語になる。
③ 「静かなら」(基本形「静かなり」)は、一語で形容動詞。

【口語訳】

- ① (1) かわいらしいもの、瓜にかいてある幼児の顔。
- (2) 野山に分け入って竹を取っては、さまざまな道具を作るのに使っていた。
- ② (1) その竹の中に、根本の光る竹が一本あった。
- (2) 雁などの列をつくったのが、たいそう小さく見えるのは、とても趣がある。
- ③ 人と対座していると、口数も多くなるし、体もくたびれ、心も平静でなくなる。

3 品詞分類

P.5

【解答】

- ① ① 動詞 ② 形容詞 ③ 形容動詞
- ④ 名詞 ⑤ 副詞 ⑥ 連体詞 ⑦ 接続詞
- ⑧ 感動詞 ⑨ 助動詞 ⑩ 助詞

【解説】

① 品詞名は文法の基本。品詞の種類や数は現代語の文法も同じだから、分類の手続きとともに覚えておこう。

苦しいことも治ってしまった。

- (2) することもなく退屈なのにまかせて、一日じゅう硯に向かって、次から次へと心に浮かんでは消えてゆくつまらないことを、とりとめもなく書きつけてみると妙にもの狂おしい気分になってくるよ。

5 動詞（1活用）の種類（識別）

P.7

【解答】

- ① (1) ハ行四段活用 (2) ラ行変格活用
- (3) ナ行変格活用 (4) ダ行上二段活用
- (5) サ行変格活用 (6) カ行変格活用
- (7) カ行下一段活用 (8) ワ行上一段活用
- (9) ハ行下二段活用 (10) ガ行四段活用
- (11) ヤ行下二段活用 (12) カ行上二段活用
- ② ① ラ行下二段活用・連用形
- ② ナ行変格活用・連体形
- ③ ラ行四段活用・連用形
- ④ ラ行四段活用・連体形
- ⑤ マ行上一段活用・連体形
- ⑥ サ行変格活用・未然形

4 活用形のはたらき

P.6

【解答】

- ① ① 連体形 ② 連用形 ③ 命令形
- ④ 終止形 ⑤ 未然形 ⑥ 已然形
- ② ① 連用形 ② 連体形 ③ 已然形
- ④ 連用形 ⑤ 連体形 ⑥ 連用形
- ⑦ 連体形 ⑧ 連用形 ⑨ 已然形

【解説】

①・② 活用形の決め手は、下への切れ続きである。助動詞・助詞をマスターすれば、いちいち活用を唱えなくても、見た瞬間に活用形が分かるようになる。

【口語訳】

- ① (1) 流れて行く川の水は絶えることがなくて…
- (2) 用事があって行ったとしても…
- (3) 「これ、乗せて行け、連れて行け。」
- (4) 犬どもが走り騒いで、それを見舞いに行く。
- (5) 河内の国へも行かなくなってしまった。
- (6) 長々と一直線に行くと…
- ② (1) 翁は、気分が悪く苦しい時でも、この子を見ると…

【解説】

- ① まず、記憶すべきAグループの動詞か否かを判定して、Aにないものは、「ず」を付けて判定する。
- ② 活用の種類については、①と同様にする。活用形は、原則として下への切れ続きで決めることができる。④・⑩は係り結びになっていることを見落とさないように。
- 【口語訳】
- ② (1) わからない、生まれたり死んだりする人間は、どこから来てどこへ去っていくのか。
- (2) りっぱだと思っただけに見ている人が、思っていたよりも劣っているような本性を見せてしまうようなのは、残念なことであろう。
- (3) むだに日を過ごしているので、人々は海を眺めては暇をつぶしていた。